

京大広報

No. 174

京都大学広報委員会



入学試験当日朝の本部正門前

目 次

昭和54年度入学者選抜学力試験（第2次 学力検査）の実施……………	2	<紹介> 法学部・日本法制史標本資料……………	6
医療技術短期大学の入学試験の実施……………	2	日誌……………	7
歩行者安全確保のための駐車実態調査結果 の概要……………	3	<随想> 老人日記……………名誉教授 豊崎 稔…………	8

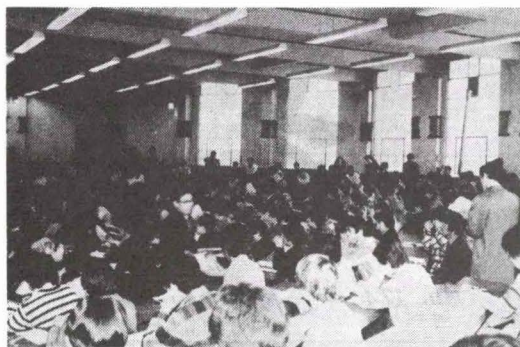
〈大学の動き〉

昭和54年度入学者選抜学力試験 (第2次学力検査)の実施

昭和54年度第2次学力検査は、京大広報 No. 173 に掲載した実施計画のとおり3月4日(日)、5日(月)の両日にわたって実施され、予定どおり終了した。受験状況は次のとおりである。

学 部	募集人員	志 願 者	受 験 者	欠席率
文 学 部	200人	732人	715人	2.3%
教育学部	50	268	263	1.9
法 学 部	330	1,072	1,060	1.1
経済学部	200	674	665	1.3
理 学 部	281	975	958	1.7
医 学 部	120	408	390	4.4
薬 学 部	80	132	132	0
工 学 部	945	1,714	1,692	1.3
農 学 部	300	547	543	0.7
計	2,506	6,522	6,418	1.6

- (注) 1. 「志願者」のうち、法・経・理・医・薬・農学部は第1段階選抜合格者の数である。
2. 「受験者」、「欠席率」は、文・教育・法・経済学部については2日目の外国語、それ以外の学部については2日目の理科についてのものである。



合格者の発表は、3月19日(月)の午後、学部ごとに行なわれる予定である。

なお、このたびの学力検査の実施にあたりとられた措置は次のとおりである。

3月3日、総長は次の掲示を出した。

(掲示第5号)

3月4日から5日までの間入学試験実施のため、とくに学内における次の行為を禁じます。

1. 集会を開くこと
2. マイクを用いて静穏を害すること
3. デモを行うこと
4. その他入学試験を妨害する一切の行為

昭和54年3月3日

京都大学総長 岡本 道雄

(掲示第6号)

入学試験を円滑に実施するため、3月4日(日)から3月5日(月)午後5時までの間、本学関係者並びに受験生以外の方の入構を禁止します。

各位の御理解と御協力をお願いします。

昭和54年3月3日

京都大学総長 岡本 道雄

医療技術短期大学の 入学試験の実施

医療技術短期学部では、さる3月5日(月)、6日(火)の両日にわたって昭和54年度の入学試験

を実施し、予定どおり終了した。

実施状況は、下表のとおりである。

なお、合格者の発表は、3月17日(土)午後行なう予定である。

学 科・専 攻 科	募集人員	受 験 者	倍 率	試 験 期 日	教 科	試 験 場
看 護 学 科 (3年制)	80人	80人	1.0	3月5日(月)	数学, 外国語, 国語	京都女子大学
				〃 6日(火)	理科	
衛 生 技 術 学 科 (3年制)	40	298	7.5	3月5日(月)	数学, 外国語, 国語	〃
				〃 6日(火)	理科	
専 攻 科 助 産 学 特別専攻(1年制)	20	52	2.6	3月6日(火)	看護学, 外国語	〃

(医療技術短期学部)

歩行者安全確保のための 駐車実態調査結果の概要

本学吉田地区は狭いキャンパスに多くの自動車がひしめき、歩行者の安全確保はもとより、騒音、排気ガスにより教育研究環境が著しく破壊されている。理想的な環境を回復するために最終目標としては大学構内への自動車の乗り入れを一切禁止するべきであろうが、現時点では自動車なしでは研究活動に支障をきたすという人達がいることもまた現実である。

そこでまず歩行者の安全を確保することを目的として、歩行上の障害となっている路上駐車の実態を調べていくことにした。これに伴い構内への自動車乗り入れ制限、路上駐車禁止措置などの実効性をあげていくためには、構内における駐車の実態を把握することが急務であると考え、構内駐車実態調査を実施した。ここに一応の調査結果が得られたので概要を報告するとともに、この調査に際し種々ご協力をいただいた関係各部局に対して心から感謝の意を表する次第である。

1. 最大駐車台数

駐車台数は時々刻々変化するが、構内別の時間帯別最大駐車台数を調べたのが表一である。午前中（11時30分～正午）に駐車台数が最大になる薬学部、病院東部、病院西部の各構内に対して、本部、北部、医学部の各構内では午後（14時～15時）にピークが見られ、西部構内のみは夕方（17時～17時30分）にピークを示している。吉田地区全体では、14時30分から15時の間に駐車が最も多く、調査日（昭和53年11月28日～12月1日）の1日平均で2,613台であった。

調査当日は入構車すべてに構内入口で調査用ステッカーを配布したため、入構を遠慮した車が250台程度あったものと思われる。それは予備調

表一 駐車最大時間帯および最大駐車台数
(1日平均)

構内	駐車最大時間帯	最大駐車台数
本部	14:30—15:00	964
北部	14:30—15:00	514
西部	17:00—17:30	65
教養部	13:00—13:30	140
医学部	14:00—14:30	181
薬学部	11:30—12:00	54
病院東部	11:30—12:00	660
病院西部	11:30—12:00	163
吉田地区全体	14:30—15:00	2,613

査および補足調査によって得られた駐車台数（表一参照）にくらべ減少していることからうかがえる。なお自転車の駐車台数については本格的調査を実施していない。

また、夜間駐車と思われるものが792台あり、これは午前7時時点の駐車台数775台とほぼ同じ値を示している。

2. 総駐車台数、平均回転率および平均駐車時間

1つの駐車スペースについて見たとき、1日のうちにそのスペースが何台の車にも利用される可能性がある。従って1日の間に構内に駐車した車の総数は表一に示す台数を上回ることになる。表一3の値は、構内別の総駐車台数を示したもので、吉田地区全域で1日平均5,752台となっている。このとき駐車スペース1台当りの利用の平均回転率は全域で2.15となり、また平均駐車時間は4時間16分となっている。

表二 予備調査、補足調査、夜間駐車調査および自転車駐車調査の結果

構内	予備調査 (S53.11.14) 14時～15時	補足調査 (S54.1.25) 14時～16時	夜間駐車調査 (S54.1.26) 0時～1時	午前7時における 平均駐車台数 (S53.11.28～12.1)	自転車駐車調査 (S54.2.1) 12時～13時
本部	977	1,029	251	215	1,360
北部	547	518	196	222	582
西部	91	80	35	26	271
教養部	133	153	11	11	751
医学部	204	229	52	52	126
薬学部	43	59	3	5	44
病院東部	690	601	191	187	270
病院西部	177	180	53	57	103
合計	2,862	2,849	792	775	3,507

表一 3 総駐車台数, 平均回転率, 平均駐車時間

構 内	総駐車台数	平均回転率	平均駐 車 時 間
本 部	1,896	1.95	4時間28分
北 部	1,058	2.01	4時間40分
西 部	213	2.91	3時間35分
教 養 部	283	1.87	2時間45分
医 学 部	357	1.89	4時間36分
薬 学 部	96	1.62	4時間47分
病院東部	1,479	2.16	4時間04分
病院西部	370	2.15	3時間55分
吉田地区全体	5,752	2.15	4時間16分

表一 4 車種の分布 (1日平均)

車 種	台 数	構 成 比
普通乗用車	4,547	0.79
軽乗用車	424	0.07
普通トラック	11	0.00
小型トラック	647	0.11
軽トラック	55	0.01
バ ス	10	0.00
特殊自動車	27	0.01
特種自動車	7	0.00
不 詳※	24	0.01
合 計	5,752	1.00

3. 車種別駐車台数

吉田地区全域で総駐車台数 5,752 のうち、乗用車が86%に当たる 4,971 台にのぼり、残りはほとんどトラックである。(表一 4 参照)

4. 職員学生等による駐車状況

1日平均の総駐車台数 5,752 のうち、職員使用の車が29%に当たる 1,679 台であり、かつ学生(大学院学生を含む)の使用する車が28%に当たる 1,623

※は調査員による車種判別が困難であったもの

台となっており、使用者不明の車が18%に当たる 1,033 台にのぼっている(表一 5 参照)。

5. 車両登録府県別駐車状況

構内に駐車している車の登録地別分布は、ほとんど全都道府県にわたっており、特に学生の使用

表一 5 職員, 学生等の駐車台数分布 (1日平均)

構 内	使用者	職 員 (研修員を 含む)	学 部 学 生	大学院学生 (研究生等 を含む)	生協・業者	外 来 者	不 明	合 計
本 部		507	472	284	177	164	292	1,896
		.27	.25	.15	.09	.09	.15	1.00
北 部		340	170	145	88	100	215	1,058
		.32	.16	.14	.08	.09	.20	1.00
西 部		19	80	7	32	31	44	213
		.09	.38	.03	.15	.15	.21	1.00
教 養 部		93	133	9	17	13	18	283
		.33	.47	.03	.06	.05	.06	1.00
医 学 部		116	92	51	43	16	39	357
		.32	.26	.14	.12	.04	.11	1.00
薬 学 部		46	18	18	10	1	3	96
		.48	.19	.19	.10	.01	.03	1.00
病 院 東 部		406	44	76	152	500	301	1,479
		.27	.03	.05	.10	.34	.20	1.00
病 院 西 部		152	9	15	40	33	121	370
		.41	.02	.04	.11	.09	.33	1.00
合 計		1,679	1,018	605	559	858	1,033	5,752
		.29	.18	.11	.10	.15	.18	1.00

(注 1) 上段は総数, 下段は構内別合計に対する構成比

(注 2) 使用者欄の「業者」は常時構内に入り出す業者, 「外来者」は前記以外の業者, 訪問者および患者等, 「不明」はステッカー表示が読み取れないものおよびステッカーのないもの。以下表 6, 表 7 についても同じ。

表一六 車両登録府県別駐車状況（1日平均）

府県	使用者 (職員 含)	職 員 (研修員を 含む)	学部学生	大学院学生 (研究生等 を含む)	生協・業者	外 来 者	不 明	合 計	構 成 比
京 都	1,340	349	266	451	615	682	3,703	0.65	
大 阪	76	178	86	48	82	98	568	0.10	
滋 賀	86	58	36	26	77	70	353	0.06	
兵 庫	43	120	69	10	25	47	314	0.05	
奈 良	13	23	13	2	8	13	72	0.01	
三 重	13	27	13	0	6	10	69	0.01	
福 井	16	11	4	2	4	7	44	0.01	
そ の 他	92	252	118	20	41	106	629	0.11	
合 計	1,679	1,018	605	559	858	1,033	5,752	1.00	

する車にその傾向が強い。学生使用の車1,623台中62%に当る1,008台が京都府以外の地域の車である。（表一六参照）

6. 関係部局別駐車状況

駐車している車の使用者の関係部局別分布状況は表一七に示すとおりであり、1位が病院の1,100台、ついで工学部の986台、農学部391台の順に少なくなっている。

7. 入構車数

各構内に入構してくる車の台数を調査して見ると、午前7時から午後7時までの12時間に総計で8,959台、構内別では病院東部地区の2,662台と本部地区の2,598台が目立っている。またタクシー入構数の多いのは病院東部であって、実に868台を数え特殊な事情を示している。（表一八参照）

表一八 入構車数（1日平均）

構 内	タクシ- 以 外	タクシ-	計
本 部	2,469	129	2,598
北 部	1,431	71	1,502
西 部	430	1	431
教 養 部	436	7	443
医 学 部	623	15	638
薬 学 部	145	2	147
病院東部	1,794	868	2,662
病院西部	517	21	538
合 計	7,845	1,114	8,959

表一七 吉田地区構内関係部局別駐車台数の分布（1日平均）

部局又は目的地※	使用者 (職員 含む)	学部学生	大学院学生 (研究生等 を含む)	生協・業者	外 来 者	不 明	合 計
事 務 局	136	—	—	66	12	5	219
保健診療所・保健管理センター	18	—	—	1	0	0	19
学 生 部	20	—	—	5	2	2	29
附 属 図 書 館	6	—	—	2	6	5	19
法 学 部	13	66	5	5	6	1	96
経 済 学 部	4	36	1	2	1	0	44
文 学 部	21	22	8	8	5	0	64
工 学 部	243	363	262	33	51	34	986
教 育 学 部	12	11	9	1	3	0	36
環 境 保 全 セ ン タ ー	1	0	0	1	0	0	2
情 報 処 理 教 育 セ ン タ ー	2	0	0	1	1	1	5
大 型 計 算 機 セ ン タ ー	17	0	0	3	7	1	28

人 文 学 科 研 究 所	2	0	0	1	1	0	4
経 済 研 究 所	4	0	0	1	2	0	7
埋 蔵 文 化 財 研 究 セ ン タ ー	4	0	0	0	1	0	5
理 学 部	152	30	58	8	24	8	280
農 学 部	146	88	80	37	28	12	391
附 属 農 場	5	0	0	0	0	0	5
附 属 演 習 林	11	1	0	2	1	1	16
基 礎 物 理 学 研 究 所	4	0	0	1	0	0	5
数 理 解 析 研 究 所	17	0	1	1	0	0	19
教 養 部	105	166	3	3	7	2	286
医 学 部	98	107	48	21	8	10	292
放 射 線 生 物 研 究 セ ン タ ー	7	0	2	1	0	0	10
放 射 性 同 位 元 素 総 合 セ ン タ ー	1	0	0	0	1	0	2
薬 学 部	42	15	17	15	0	0	89
病 院	431	21	81	133	392	42	1,100
医 療 技 術 短 期 大 学 部	15	6	0	3	1	0	25
結 核 胸 部 疾 患 研 究 所	62	0	4	7	3	3	79
ウ イ ル ス 研 究 所	17	0	1	2	1	1	22
ヘ リ オ ト ロ ン 核 融 合 研 究 セ ン タ ー	1	0	0	0	0	0	1
東 南 ア ジ ア 研 究 セ ン タ ー	2	0	0	0	0	1	3
化 学 研 究 所	7	1	0	1	0	0	9
原 子 エ ネ ル ギ ー 研 究 所	1	0	1	0	0	0	2
木 材 研 究 所	0	0	1	0	0	0	1
食 糧 科 学 研 究 所	3	0	0	0	1	0	4
防 災 研 究 所	8	2	3	0	0	0	13
原 子 炉 実 験 所	1	0	0	0	0	0	1
霊 長 類 研 究 所	3	0	0	0	0	0	3
生 協	—	—	—	100	15	4	119
不 明	37	83	20	94	278	900	1,412
合 計	1,679	1,018	605	559	858	1,033	5,752

※ はステッカーに表示された部局または外来者の訪問部局

(構内交通安全小委員会)

< 紹 介 >

法学部・日本法制史標本資料

法学部には、180点にのぼる「日本法制史標本資料」が所蔵されている。古くは明治42年の購入にはじまり、一部寄贈等を含め、昭和20年8月までの間に蒐集されたものである。なかでも、昭和6年から同20年の間に蒐集されたものが多いが、これは、牧教授、小早川助教授の尽力によるものである。

戦後分散していたこれらの標本資料は、昭和47年、法経北館が新築されてからは、中沢教授の奔

走により、一室に集中・保管されるようになり今日に至っている。

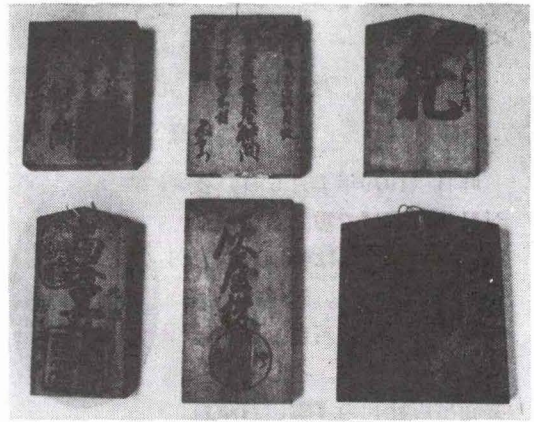
ここに集められた日本法制史関係の標本資料は、時代的には江戸時代中期から明治初期までのものを含み、その内容は、(Ⅰ)刑事関係 (Ⅱ)商業関係 (Ⅲ)その他に大別できる。さらに(Ⅰ)の「刑事関係」は、(イ)手錠・足錠等の桎梏類 (ロ)十手・龕燈・長脚鑽・鉄把・狼牙棒・鈎棒・差縄等の捕具類 (ハ)算盤板・抱石・にぎり等の拷問具類 (ニ)捨札等、(Ⅱ)の「商業関係」は、(イ)鑑札 (ロ)株札等 (ハ)藩札 (ニ)長崎港務所貿易銭、(Ⅲ)の「その他」は、(イ)各種高札類

(ロ)雑（マリア観音像・邏卒警笛など）に細分することができる。

これらの標本資料は今日ではいずれも珍重すべきものであるが、特に江戸時代の刑具および拷具は、使用した後不浄の品として、焼き棄てるのが往々にしてあったので、後世に伝わりにくいという事情があった。その意味では捨札をはじめとする関係資料は貴重なものである。

鑑札・株札類は大きくわけて、(1)天保12年(1841年)いわゆる「天保の改革」により株仲間の解散令が出され、株札が廃止された時点までのもの、(2)嘉永4年(1851年)株仲間再興令、安政4年(1857年)株札の復旧から明治元年に至るまでのもの、(3)明治元年(1868年)旧株札が廃止され新政府によって、それに代わり下付されたもの、の3種からなるが、それぞれの区分のものを揃えており、職種も約30種を数えることができる。

高札類は約15点あり、天和2年(1682年)の吉利支丹禁制のものが一番古いが、攘夷浪人取締制札、浪人徒党取締制札、火事取締制札等、江戸時代の生活を彷彿とさせてくれるものがある。また明治元年五箇条の御誓文発布の翌日、太政官は旧幕府の高札を撤去し、かわりにいわゆる五榜を掲げたが、その5枚の制札の内、第一札五倫札、第



鑑札・株札類

二札徒党札、第三札切支丹札、第四札外国交際札の4種が集められている。

昭和51年5月から7月にかけて、日本法制史研究室と図書室が協力して蒐集品の整理を行なった。この過程で標本資料を一点ずつ写真に撮り、写真版を作成した。いずれはこれを基にして、図録集を刊行する予定である。ひとつおりの整理が済んだ昭52年秋(10月24日～28日)、法制史関係資料展が催され、他の法制史関係の資料とともに、標本資料の一部を附属図書館陳列室で展示した。今の保存状態では、虫害・腐蝕の進行・塵埃等の心配があり、適切な保存処置をとる必要にせまられている。(法学部)

日 誌

(1979年2月1日～28日)

- | | | |
|------|---------------------------------------|---|
| 2月5日 | 防火委員会 | Dr. Volker Schmidt 氏および同国大使館 |
| 〃 | 附属図書館商議会 | 第一書記官(科学技術担当) Dr. Dieter |
| 6日 | 防災研究所研究発表講演会(7日まで) | Preusche 氏来学, 関係教官と懇談 |
| 14日 | 安全委員会 | 26日 附属図書館商議会 |
| 19日 | 中華人民共和国駐大阪総領事館領事 李孟鏡氏来学, 総長および学生部長と懇談 | 〃 ドイツ連邦共和国ケルン大学教授 Prof. Dr. Heinz Hübner 氏来学, 総長と懇談 |
| 20日 | 評議会 | 27日 メキシコ教育省企画担当次官 Emilio |
| 〃 | 保健衛生委員会 | Rosenblueth 氏夫妻来学, 事務局長および |
| 21日 | 国際交流委員会 | 関係教官と懇談 |
| 23日 | ドイツ民主共和国科学アカデミー主任研究員 | 28日 環境保全委員会 |

訂 正

京大広報 No.173 の海外訪問の感想(その3)のうち、東南アジアの国々に対する日本政府の援助に係る記述中、「タイのタマサート大学へは日本から1978年度13億

円にのぼる……」とあるのは「タイのカセサート大学へは日本から1978年度13億円にのぼる……」の誤りでした。

